

鍋林オンライン分割販売システム

県薬会営薬局で稼働開始

業務効率化可能、全県規模に普及

医薬品・医療機器卸売業の鍋林（松本市、島宏幸社長）が販売するクラウド型医薬品在庫管理システム「ODSS」を利用したオンライン分割販売発注システムが、12月24日から県薬剤師会営薬局で稼働を開始した。従来ファクスでやり取りを行っていた分割販売業務をシステム化することで、発注薬局と受注薬局双方の業務効率化が可能。会営薬局の稼働開始に伴い、同薬局に発注を行っていた県内約140薬局に加え、新たに約60薬局でも稼働を始めた。

（村田雄介）

システムを用いることで在庫有無確認の手間が省けるほか、発注薬局側では注文票への記載作業やファクス送信作業が、受注薬局側では依頼品のシステム入力作業が効率化でき、注文票の文字が判別できないなどの問題も改善できる。

同システムについては、松本保険薬局事業協同組合ほんじょう薬局と松本薬剤師会営村井薬局が受注者側で先行して利用しており、今までの利用発注者は2薬局に関連した松本市近隣のみの薬局

だったが、今回の県薬会営薬局の稼働開始で県内全域に波及。県内で計約200薬局での稼働となった。なお、全国で見ると500以上の薬局が「ODSS」を導入しており、そのうち約270の薬局でオンライン分割販売発注システムを利用しているという。

同社担当者は「今回のシステムで薬局の業務効率化に貢献するとともに、『患者のための薬局ビジョン』でも提唱されている対物から対人業務へのシフトチェンジに貢献できる

システムの提供を今後も目指していく」と話している。

費用は、「ODSS」をオンライン分割発注システムとして利用する場合は無料。在庫管理システムとして導入する場合は別途月額利用料が発生する。